『報徳のおしえ』とともに

中桐万里子氏 講演

全国報徳サミット（茨城県筑西市大会）

二宮尊徳7代目子孫 中桐万里子氏基調講演より（その3）

前回は広報とよころ4月号に掲載

金次郎は復興のリーダーたちとの対話の後に「あなたは何にこまっていますか」「そして、どうなるといいと思っていますか」とたずねます。

小田原・秦野では、金次郎が生まれる前に起こった富士山の噴火の被害で、非常に苦しんでいました。豊かだった土地が痩せました。土が変わりました。農業ができなくなりました。酒匂川がよく氾濫しました。皆は火山灰さえなければ何とかなるのだ、だけど、もうやっても無駄なのだと、そう感じていました。

ある村は言いました。自分たちの村は水路を引くのが非常に難しい。水に非常に苦労をしている。その工事には途方もないお金がかかる。お金もないし、水もない。だから田んぼができない。だから農業ができない、と。別の村も様々な理由をつけて、これが悪い、あれが悪いと嘆いたわけです。

尊徳は、また同じように言います。あなたたちもまた、惑っている。現実が見えていない。本当に困っている場所がわかっていないのではないか。農業人は何をする人なのか、思い出してください。私たち農業を営みにする者たち、それは民の命のルーツを作り出していく。生産をする。作物を作る。村を豊かにする。それこそが私たちの仕事だったではないか。

火山灰でお米ができない。だったらその火山灰を生かしていけばいいではないか。火山灰を使って何がつくれるか。

まさにあの地は、たばこや落花生が有名だったりする。それはこの火山灰の中で何を生もうとしたかを考えたからだ。あるいは、水を引くのが難しい、田んぼができないと嘆いているならば、畑をつくればいいではないか。

私たちが本当に困っていること、それは自らの誇りを失っていること。あるいは、自らが何をする者なのかを見失っていることなのではないか。

そもそも、私たち農業人の先祖は何をやってきたのか。この地は、始まりは原野だった。その原野を切り開き、緑豊かな場所にしたのは、我々農業人の先祖たちではないだろうか。

私たちはどんな状況の中でも、生み出していくことができる。それらと向き合い、そこに実りをもたらしていくことができる。それこそが農業人の誇りであり、あるいは、価値なのではないか。私たちが自分のものに苦しんでいる。あれがない、これがないと目先のことにとらわれるのではなくて、もうちょっと全体の景色を見よう。そして、私たちの始まりの場所に思いをはせよう、いったい私たちは何者だったのだろうかということ。

農業人だった金次郎は農業にことさらの誇りを持っていました。この世界に生み出すことができる。ものづくり、生産性、創造力、そのことは非常に尊いことである。動物には絶対にできないこと。火山灰であろうと、水のない地であろうと、我々の働き、汗、そして知恵、技術、そのものによって必ず緑豊かなあのふるさとを取り戻すことができると、そんなふうに信じていました。

金次郎にとって大切だったのは、もちろん彼は技術を持っていた、経験をもっていたということでもありますが、それ以上に、まずは心の姿勢を整えること、そして復活させること、みんなに思い出してもらうこと、自分の心に眠り、ふたをしてしまっているようなその思いにもう一度気づいてほしいと。そのことなくして技術だけを上積みしても何にもならないのだと。

私たちには様々なつながりがあり、多くを支えてもらっている人がいる。だからこそ農業人たちの魂に火をつけていくために、あのリーダーたちからの推譲が必要だった。

家老や武士たちが年貢と給与を辞退していく、あるいは藩主が年貢率を低下させる。そのことについて金次郎は、仲間である農民たちに、決して権利だとは語りませんでした。当然なすべき施策だとも語りませんでした。

彼は言います。殿様や家老や武士たちは、自分たちの身を切ってでも、あるいは、自分たちが損をするかもしれないこの状況でも私たちを思っている。そして自らが推譲することによって私たちを豊かにしようとしている。そんなすごい殿様、そんなすごい武士がいるわがふるさとは、誇りではないだろうか。感動ではないだろうか。感謝ではないだろうか。

様々な悪政に苦しんでいるまちだってたくさんある中で、なんと素敵なことではないかと、そう語るのです。だからこそ私たちも立ち上がろう。

リーダーの背中を追いかけながら、リーダーと共にやっていこう。自分たちのできることをやろうじゃないかと、そう話しかける。まさにリーダーたちと、農業人・村人たちとをつないでいく、それが金次郎の仕事だったとも言えます。

そんなこともあって金次郎は、このことを大切にしたというわけです。

「報徳訓」と呼ばれる彼が愛したもの。よく皆さんもご存じだと思いますが、「報徳訓」は語ります。父母の根源は、天地の令名にあり、身体の根源は、父母の生育にあり、云々かんぬんと…（続く）

筑西市立五所小学校
「紙芝居」報徳学習より

問合せ先　教育課社会教育係　☎（579）5801

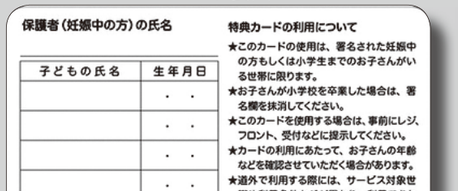
どさんこ・子育て特典カード有効期限延長のお知らせ

道内にお住まいの妊娠中の方や小学校６年生までのお子さんをお持ちのご家庭を対象に、「どさんこ・子育て特典カード」を協賛店舗で提示することで様々なサービスを受けることができる「どさんこ・子育て特典制度」が令和２年度以降も実施されることになりました。

それに伴い、令和２年５月以前にお配りしたカードには有効期限が「平成 32 年３月末」と記載されていますが、対象（妊娠中の方やお子さんが小学校６年生までのご家庭）であれば、そのまま引き続きご使用いただけます（再発行の必要もありません）。また、カードの交付や紛失等により、再発行を希望される方は保健センター（☎574-3141）までご連絡ください。

カード表面

カード裏面



有効期限が平成32年3月末と記載されていても、引き続き使用できます

本事業の詳細につきましては、北海道子育て支援サイト「ＨＡＧＵＫＵＭＵ」内に掲載されています▶▶▶

駐在だより はるにれ

～みんなで築こう　安全で安心な大地～

池田警察署	572-0110
茂岩駐在所	574-2013
豊頃駐在所	574-2151
大津駐在所	575-2002

HP http://www.ikeda-syo.police.pref.hokkaido.jp

新型コロナウイルスに便乗した犯罪に注意！

道内において、新型コロナウイルスに関連した、不審な電話やメール等が確認されています。

オレオレ詐欺や還付金詐欺などの詐欺被害に遭う恐れもありますので、犯人からの電話に出ないために、自宅の電話機を留守番設定にするなどの防犯対策をお願いします。また、関連した様々な悪質商法が発生する恐れもあります。

不審な電話やメール、訪問等を受けた際は、被害に遭わないよう最寄りの警察にご相談ください。

例）
- コロナウイルスにかかったかもしれないので、病院へ行く
- 給付金の手続きを代行する
- 注文していないマスク・消毒液等が自宅に送りつけられる
- 偽のマスク等販売サイトへ誘導し、個人情報を盗み取る

自分は大丈夫と思わず、
おかしいなとおもったらまずは相談！

夏山の遭難防止

～ 山登り・体力・技量を考えて ～

- 体力と技量に応じた登山を。
- 登山計画書を提出しましょう。
- 複数人での登山に努めましょう。
- 携帯電話を持ちましょう。

ゴミの不法投棄はやめましょう

ゴミの不法投棄は、山林や河川、海などの自然環境を破壊するだけでなく、地域生活、農作業、漁業、災害防止などにも多大な影響をきたします。ゴミは必ず、自治体のルールにしたがって適正に処分しましょう。ゴミの不法投棄は犯罪です！

ゴミ焼きの禁止

基準に従わない野外での廃棄物、ごみの焼却には厳しい罰則が適用されます。野外焼却は、煙、すす、悪臭により周囲の人に迷惑をかけるだけでなく有害物質の発生や、火災の原因にもなりますので絶対にやめましょう！